

13. シンチカメラ簡易データ処理装置——EDR-42の使用経験

今泉 美治 木下 博史
計屋 慧実
(長大・放)

当院のシンチカメラシステムに、EDR-42 が加わったので、その概要と若干の使用経験による検討を報告する。本装置は、データストア部、プロセッシング部、入出力部および電源部よりなり、マイコンは Inter-8080 を採用している。

特徴：データの数え落しがない(デッドタイム： $1 \mu \text{ sec}$ 以下)。スムージング，加減算，対数変換が可。データエリアは4個所で，各々512チャンネルである。1チャンネル当たりの記憶容量は16ビットで，一般検査では先ずオーバーフローはない。

問題点：本システムでは，ROI が2個所しか取れない。データ処理は1エリアずつしかできない。長時間の解析には不利である。ユーザにとってプログラムの自由度がない。今後，多方面の解析を試み，検討を重ねたい。